

令和7年度

学校評価書

坂井市立三国西小学校

学校評価書の見方について

項目・重点目標・具体的取組は、今年度のスクールプランに示された内容で、学校として特に重点的に取り組むものです。

目標指数は、スクールプランに示されているもので、アンケートにおける、判断基準のA+Bの割合の目標値を示しています。

結果は、回答者のAまたはBと判断した割合で示しています。目標指数に達した場合○、達しない場合▲で表しています。

重点目標		◎楽しくわかる授業づくり ○思考力・表現力の育成 ○基本の定着と読解力の育成				
具体的な取組		◎基礎・基本の定着とともに「引き出す・楽しむ」を実践し、主体的性を育む ・学習ルールの徹底（西小スタンダード） ・見通しを持って粘り強く取り組み、自分の振り返って学習を深める ○ICT機器を効果的に活用し、個別最適で手際よい授業を行う えを伝える力を育成する 家庭での読書を推進し、読書活動のを図る				
回答者は、アンケートの回答者です。						
回答者	評価の観点	判断基準	12月	7月	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果	
教職員	取組指標	分かる喜び、学ぶ楽しさを実感できる授業を、				
	分かる喜び学ぶ楽しさを実感できるような授業を行う。	A よくできた	90		90%	10%
	(目標指数)	B だいたいできた				
	A+Bの合計が100%	C あまりできなかった				
	D ほとんどできなかった					
児童	(満足度指標)	授業が	85	91	92%	8%
	児童が授業の内容を楽しんでいると感じる。	A とてもたのしい	92	91	92%	8%
	(目標指数)	B たのしい				
	A+Bの合計が85%以上	C あまりたのしくない				
	D たのしくない					
《結果・考察》			《改善・取組》			

判断基準は、それぞれの指標を求めるために設定し、アンケートの設問に使用しています。

児童アンケートは7月と12月の2回実施しています。ここでは7月の結果を表示しています。

グラフは「A+B」と「C+D」の割合を示しています。

確 かな 学 力	1	授業では、自分で考えて、すすんで学習をすることが
		A できた
		B だいたいできた
		C あまりできなかった
	D できなかった	
2	授業で友達と自分の意見や考えを伝え合うことが	
	A できた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
D できなかった		
3	読書をするのが	
	A とてもたのしい	
	B たのしい	
	C あまりたのしくない	
D たのしくない		
4	図書かし出しの こじん目ひょうを	
	A たっせいできた	
	B 3学期終業式までにたっせいできる	
	C たっせいできないかもしれない	
D たっせいできない		
5	しゅくだいや自主学習に	
	A しっかりとりくめた	
	B だいたいとりくめた	
	C あまりとりくめなかった	
D とりくめなかった		
豊 かな 心	6	友達や先生、家の人、地域の方々などに自分から、あいさつが
		A できた
		B だいたいできた
		C あまりできなかった
	D できなかった	
	7	「口をとして、すみずみまで時間いっぱい」せいそう活動が
		A できた
		B だいたいできた
		C あまりできなかった
	D できなかった	
	8	身の回りの整理整頓が
		A いつもできた
		B だいたいできた
		C あまりできなかった
	D できなかった	
9	学校で楽しく生活することが	
	A できた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
D できなかった		

健 や か な 体	10	「早寝・早起き・朝ごはん」にとりくむことが
		A よくできた
		B だいたいできた
		C あまりできなかった
	D できなかった	
	11	運動することが
		A とてもたのしい
		B たのしい
		C あまりたのしくない
	D たのしくない	
	12	進んで体をきたえることが(昼休み、スポーツ少年団などをふくむ)
		A 週3回以上できた
B 週1~2回できた		
C できない週が多かった		
D できなかった		
13	ゲーム・インターネット・タブレットの使い方の約束やマナーを家や学校で	
	A よくまもれた	
	B だいたいまもれた	
	C あまりまもれなかった	
D まもれなかった		
信 頼 さ れ る 学 校	14	生活や総合の学習で自分の地域のことが
		A よくわかった
		B だいたいわかった
		C あまりわからなかった
	D わからなかった	
	15	教育相談のときやこまったことがあったとき、先生や親、友達に
		A はなせた
		B だいたいはなせた
		C あまりはなせなかった
		D はなせなかった

※アンケートの回答はGoogleフォームで行っています。

1年	13	/	13
2年	11	/	14
3年	11	/	14
4年	16	/	21
5年	6	/	11
6年	17	/	19

確かな学力	1	週末にお子さんは、家で読書を	
		A 毎週1回程度	
		B 月に2~3回程度	
		C 月に1~2回程度	
確かな学力	2	お子さんは、自ら宿題や自主学習に	
		A 取り組んでいる	
		B だいたい取り組んでいる	
		C あまり取り組んでいない	
豊かな心	3	お子さんは、家庭でのあいさつが	
		A できている	
		B だいたいできている	
		C あまりできていない	
	豊かな心	4	お子さんは、楽しく登校することが
			A できている
			B だいたいできている
			C あまりできていない
健やかな体	5	お子さんは、「早寝、早起き、朝ごはん」が	
		A よく実践できた	
		B だいたい実践できた	
		C もう少しだった	
	健やかな体	6	子どもと決めたゲーム・インターネット (Youtube・スマホ・タブレット・LINEなど)の
			A ルールがあり、しっかり守らせることができた
			B ルールがあり、だいたい守らせることができた
			C ルールはあるが、守らせることはできなかった
信頼される学校	7	おたよりやホームページ、学校公開から、教育活動など学校の様子が	
		A よく分かった	
		B 分かった	
		C あまり分からなかった	
	信頼される学校	8	学校生活のことで気になることがあった時、教職員に相談してみようと思いますか。
			A 思う
			B だいたいそう思う
			C あまり思わない
D 思わない			
(自由記述欄)			

※アンケートの回答はGoogleフォームで行っています。

確かな学力	1	児童が授業に主体的に取り組めるような指導の工夫が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	2	対話を重視し、学ぶ楽しさを実感できる授業を、 A よくできた B だいたいできた C あまりできなかった D ほとんどできなかった
	3	読書ファイルを有効に活用し、読書の習慣化を図る指導を、 A 毎月できた B ほぼできた(1・2回しない) C あまりできなかった(2ヶ月に1度程度) D できなかった
	4	計画的に宿題や自主学習を出して指導を A 毎日行った B だいたい行った C あまり行っていない D 行っていない
豊かな心	5	自ら進んであいさつができるように指導が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	6	思いやりのある心を育てるための指導の工夫が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	7	年3回の教育相談週間などを通して児童の心のケアが、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	8	縦割り班活動で児童が協力し、仲良く活動するための指導が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	9	身の回りの整理整頓をする指導を、 A 週1回以上できた B 月1～2回できた C あまりできなかった D できなかった

健やかな体	10	「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を、 A よく行った B だいたい行った C あまり行わなかった D ほとんど行わなかった
	11	体力づくりに意欲的に取り組めるような指導を、 A 積極的に行った B だいたい行った C あまり行わなかった D ほとんど行わなかった
	12	ゲーム・インターネット (SNS) 利用の健全な習慣が身につくよう指導を、 A よく行った B だいたい行った C あまり行わなかった D ほとんど行わなかった
信頼される学校	13	ふるさと学習で児童が自分の地域のよさを見つけられるような指導が A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	14	面談・欠席者への連絡・気がかりな事等の話し合いなどを通して保護者とのコミュニケーションを図ることが、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった
	15	保護者や地域へのおたよりやホームページ等で情報発信を効果的に、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった

※アンケートの回答はGoogleフォームで行っています。

確かな学力 学校評価総合シート

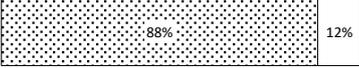
重点目標		◎対話を重視し 楽しくわかる授業づくり ◎思考力表現力の育成 ○基礎基本の定着と読解力の育成					
具体的な取組		◎基礎・基本の定着とともに「引き出す・楽しむ教育」を実践し、子供の主体性を育む ・学習ルール（西小スタンダード）の徹底 ・見通しを持って粘り強く取り組み、自分の学習を振り返って次につなげる ○ICT機器を効果的に活用し、個別最適で手をかけすぎない授業づくりを行う ○対話し自分の考えを伝える力を育成する ○朝読書や家庭での読書を推進し、読書活動の充実を図る					
回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標	児童が授業に主体的に取り組めるような指導の工夫が、		82			
	児童が授業に主体的に取り組めるような授業を行う。	A できた				82%	18%
	(目標指数)	B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
		D できなかった					
児童	成果指標	授業では、自分で考えて、すすんで学習をすることが		98			
	児童が授業にすすんで取り組んでいると感じる。	A できた	90以上		94	98%	2%
	(目標指数)	B だいたいできた					
	A+Bが90%以上	C あまりできなかった		○			
		D できなかった					
《結果・考察》 ・教職員の数値が目標に達していない。努力をしたが、思うように結果に結びつかないこともあったのではないかと考えられる。児童の数値は目標の数値を上回ることができており、わかる喜び学ぶ楽しさを実感できるような授業を行うことができていると考えられる。			《改善・取組》 ・「やればできる」という達成感を感じられる課題や体験活動を取り入れ、学ぶ楽しさを実感できるようにする。 ・引き続きICTを有効活用する。 ・今年度の授業実践や教材のデータを残し、引き継げるようにする。				

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標	対話を重視し、学ぶ楽しさを実感できる授業を、		82			
	対話を重視し、学ぶ楽しさを実感できる授業を行う。	A よくできた	90以上			82%	18%
	(目標指数)	B だいたいできた		▲			
	A+Bが90%以上	C あまりできなかった					
		D ほとんどできなかった					
児童	成果指標	授業で友達と自分の意見や考えを伝え合うことが		91			
	授業で友達と自分の意見や考えを伝え合うことができる。	A できた			90	91%	9%
	(目標指数)	B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
		D できなかった					
《結果・考察》 ・教職員の数値が目標に達していない。「教員と」、「児童同士」など、対話の相手によって、学びの目標の到達度合いに差が出てきたためと考えられる。			《改善・取組》 ・対話を活発化するために、場に応じたヒントカードなどを準備する。 ・対話の相手を固定化せず、いろいろな人と対話をする機会を設ける。 ・間違えてもよいという雰囲気づくりを徹底する。				

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)		C+D(%)	
			目標	結果	結果				
教職員	取組指標	読書ファイルを有効に活用し、読書の習慣化を図る指導を、		88					
	読書ファイルを有効に活用し、読書の習慣化を図る	A 毎月できた							
		B ほぼできた(1・2回しない)							
	(目標指数)	C あまりできなかった(2ヶ月に1度程度)							
		D できなかった							
児童	成果指標	読書をするのが		84	80				
	読書をするのが楽しいと感じる。	A とてもたのしい							
		B たのしい							
	(目標指数) A+Bが70%以上	C あまりたのしくない							
		D たのしくない							
児童	成果指標	図書貸し出しの 個人目標を		71	73				
	図書の貸し出しの個人目標を達成できた。	A たっせいできた	70以上						
		B 3学期終業式までにたっせいできる							
	(目標指数) A+Bが70%以上	C たっせいできないかもしれない	○						
		D たっせいできない							
保護者	成果指標	週末にお子さんは、家で読書を		50					
	子どもは、読書をする時間をもっている。	A 毎週1回程度							
		B 月に2~3回程度							
	(目標指数)	C 月に1~2回程度							
		D していない							
《結果・考察》 ・図書委員会の活動や担任の声かけ、地域ボランティアによる読み聞かせにより、読書を楽しんでいる児童が増え、貸し出し個人目標を達成できた児童も増えた。			《改善・取組》 ・読書ファイルの活用については、毎月使用を徹底する。 ・図書委員会の活動や担任の声かけ、地域ボランティアによる読み聞かせを継続する。						

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)		C+D(%)	
			目標	結果	結果				
教職員	取組指標 家庭学習を計画的に出して指導することができた。	計画的に宿題や自主学習を出して指導を、		100					
	(目標指数)	A 毎日行った							
		B だいたい行った							
		C あまり行っていない							
		D 行っていない							
児童	成果指数 家庭学習にしっかり取り組むことができた。	宿題や自主学習に	90 以上	88 ▲	95				
	(目標指数) A+Bが90%以上	A 取り組んでいる							
		B だいたい取り組んでいる							
		C あまり取り組んでいない							
		D 取り組んでいない							
保護者	成果指標 児童は、自ら家庭学習に取り組んでいた。	お子さんは、自ら宿題や自主学習に		78					
	(目標指数)	A よくしている							
		B ときどきしている							
		C あまりしていない							
		D していない							
《結果・考察》			《改善・取組》						
<p>・高学年は自分の苦手分野を意識できたことにより、苦手分野への挑戦を始めている。保護者から見ると、苦手分野がなかなか進まない児童の様子を見て、しっかり取り組んでいないと感じていると考えられる。</p> <p>・家庭学習はきちんと済ませて提出する児童がほとんどである。保護者のいない時間に家庭学習を済ませてしまうので、保護者が目にしていないと考えられる。</p>			<p>・学年の実態に応じて、シールなどを用いて児童の頑張りが目に見える形で励ましたり、各教室で学習物を掲示したりすることを継続する。</p> <p>・タブレットを活用するなど、保護者参加型の宿題がないか探っていく。</p>						

豊かな心 学校評価総合シート

重点目標		◎笑顔と元気な声が響く楽しい学校づくり ○よさを認め合う温かな学級・学校づくり			
具体的な取組		◎心が育つ環境づくりを行う（あいさつ運動・環境美化・整理整頓） ○魅力ある学校づくりを進めるため、体験学習や教育相談の充実とポジティブ教育の推進を図る ○思いやり 多様性 人権尊重の意識を育む			
回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月
			目標	結果	結果
				A+B(%)	C+D(%)
保護者	満足度指標 子どもは楽しく登校することができている。 (目標指数)	お子さんは、楽しく登校することが		86	
		A できている			
		B だいたいできている			
		C あまりできていない			
	D できていない				
児童	成果指数 学校で楽しく生活することができる。 (目標指数) A+Bが90%以上	学校で楽しく生活することが	90以上	98 ○	92
		A できた			
		B だいたいできた			
		C あまりできなかった			
	D できなかった				
《結果・考察》			《改善・取組》		
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、ポジティブ教育、面談、カウンセラーの協力で、児童の心のケアが充実した結果が出たと考える。 ・縦割り活動、学校行事を通して、クラスだけでなく異学年との交流を積極的に努めてきたため、学校全体が仲良く居心地の良い場所となった。 ・わかる授業づくりに努めてきたため、学級での居心地も高まったと考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校に相談しやすい雰囲気づくりに努める。アンケートや連絡帳、保護者会を通して、保護者の心配に寄り添う。 ・保護者と児童で数値の差が見られるが、差が縮まるよう、学校公開、学年だより等で、児童の様子を保護者に知らせる。 		

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月
			目標	結果	結果
				A+B(%)	C+D(%)
教職員	取組指標 自ら進んであいさつができるような指導をする。 (目標指数)	自ら進んであいさつができるように指導が、		90	
		A できた			
		B だいたいできた			
		C あまりできなかった			
	D できなかった				
保護者	満足度指数 子どもは、進んであいさつができてると感じている。 (目標指数)	お子さんは、家庭でのあいさつが		93	
		A できている			
		B だいたいできている			
		C あまりできていない			
	D できていない				
児童	満足度指数 自分から進んで友達・先生・家の人・地域の方々などにあいさつすることができる。 (目標指数) A+Bが90%以上	友達や先生、家の人、地域の方々などに自分からあいさつが	90以上	97 ○	96
		A できた			
		B だいたいできた			
		C あまりできなかった			
	D できなかった				
《結果・考察》			《改善・取組》		
<ul style="list-style-type: none"> ・結果はいいが、声の大きさ、自分からということに課題が残る。 			<ul style="list-style-type: none"> ・運営生活委員会の取り組みを時々行い、挨拶の活性化を行う。 		

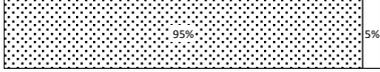
豊かな心 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果	A+B(%)		C+D(%)
教職員	取組指標 思いやりの心を育てるために、 道徳の授業や日々の関係づくり を工夫する。 (目標指数)	思いやりのある心を育てるための指導の工夫が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった		100		100%		0%
	満足度指数 教育相談週間などを通して、児 童の心のケアに努める。 (目標指数)	年3回の教育相談週間などを通して児童の心のケア が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった		88		88%	12%	
	成果指標 縦割り活動で、異学年児童と協 力し、仲良く活動するための指 導に取り組む。 (目標指数)	縦割り班活動で児童が協力し、仲良く活動するた めの指導が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった		100		100%		0%
	取組指標 「口を閉じて・時間いっぱい・ 隅々まで」清掃活動に取り組 めた。 (目標指数)	「口をとじて、すみずみまで時間いっぱい」せい そう活動が A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった		97	92	97%		3%
教職員	満足度指数 児童が、身の回りの整理整頓を できるような指導や工夫に取り 組む。 (目標指数)	身の回りの整理整頓をする指導を、 A 週1回以上できた B 月1～2回できた C あまりできなかった D できなかった		100		100%		0%
	成果指標 身の回りの整理整頓ができる。 (目標指数)	身の回りの整理整頓とんが A いつもできた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった		83	81	83%	17%	
	《結果・考察》 ・身の回りの整頓が身につかない児童が多い。		《改善・取組》 ・身の回りの整理整頓に関しては、低学年のころから身 に着けたことを大切にしつつ、気づいたらこまめに声かけ、 定位置の確認を行う。 ・写真に撮って見せたり、やり直しをさせたりして実際の 自分の片づけ方を振り返らせることで、自分でやろうとす る意識が高める。 ・教職員の「教育相談週間などを通して児童の心のケアに 努める」の項目は、担任だけが答えるようにしては。					

健やかな体 学校評価総合シート

重点目標		◎笑顔と元気な声が響く楽しい学校づくり ○健康教育の充実と基本的生活習慣の確立					
具体的な取組		○体力の向上を図る（体育の充実と継続的な運動習慣の確立） ○家庭と連携し健康的な生活習慣を育成する（歯と口の健康 食育 眠育の充実）					
回答者	評価の観点	判断基準	R 7_12月		7月	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標 児童が「早寝・早起き・朝ごはん」を実践できるような取り組みをした。	「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を、	90 以上	100	86	100%	0%
	(目標指数)	A よく行った					
		B だいたい行った					
		C あまり行わなかった					
児童	成果指標 健康のために「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組むことができた。	「早寝・早起き・朝ごはん」にとりくむことが	90 以上	85	86	85%	15%
	(目標指数) A+Bの合計が90%以上	A よくできた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
保護者	満足度指標 子どもが「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組むことができたと感じている。	お子さんは、「早寝、早起き、朝ごはん」が	90 以上	74	86	74%	26%
	(目標指数)	A よく実践できた					
		B だいたい実践できた					
		C あまりできなかった					
《結果・考察》 ・睡眠、朝食、メディア調べの結果から、冬は寒くて布団から出られないというふり返りをしている児童がいた。 ・早寝早起きができなかった理由を書いている児童が少ない。 ・習い事があっても寝る時刻を改善できている児童が増えている。			《改善・取組》 睡眠、朝食、メディア調べを継続実施し、1週間の取組後のふり返りをきちんとできるように指導する。 毎日、同じリズムで生活できるように指導する。				

健やかな体 学校評価総合シート

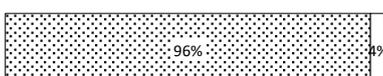
回答者	評価の観点	判断基準	R 7_12月		7月	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果			
教職員	取組指標	体力づくりに意欲的に取り組めるような指導を、		100				
	(目標指数)	A 積極的に行った						
		B だいたい行った						
		C あまり行わなかった						
	D ほとんど行わなかった							
児童	成果指標	進んで体をきたえることが(昼休み、スポーツ少年団などをふくむ)		91	94			
	(目標指数)	A 週3回以上できた						
		B 週1~2回できた						
		C できない週が多かった						
	D できなかった							
児童	満足度指標	運動することが		95	98			
	(目標指数)	A とてもたのしい						
		B たのしい						
		C あまりたのしくない						
A+Bが90%以上	D たのしくない							
《結果・考察》			《改善・取組》					
<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、体育館やわんぱく広場で遊ぶ児童が増えてきているが、グラウンドで遊ぶ児童は少ない。 ・冬場になると、昼休みの体育館利用が減る。 ・児童の体力は平均的だが、粘り強さに欠ける様子が見られるときがある。 ・体力づくりに取り組むために、ランニングフェスティバルは今後も継続した方がよい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・児童が体育の時間に使う小さめのドッジボールを2人に1個になるように増やす。 ・縦割りでの外遊びをする企画を設け、さらに外で遊ぶ児童が増えるようにする。 ・遊具を使った運動遊びを体育の時間などに行う。 ・なわとび週間の間は、多目的ホールをなわとびスペースとして開放する。 ・体育の時間を中心に、体力づくりに取り組めるようにしていく。 ・体育館の使用割当を複数の学年が使用できるように変更する。 					

健やかな体 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果			
教職員	取組指標	ゲーム・インターネット（SNS）利用の健全な習慣が身につくよう指導を、		89				
	児童がゲーム・インターネット利用の健全な習慣が身につくよう指導できた。	A よく行った						
	(目標指数)	B だいたい行った						
		C あまり行わなかった						
		D ほとんど行わなかった						
児童	成果指標	ゲーム・インターネット・タブレットの使い方の約束やマナーを家や学校で		95	91			
	ゲーム・インターネットの使い方のマナーを守れた。	A よく守れた						
	(目標指数)	B だいたい守れた						
		C あまり守れなかった						
		D 守れなかった						
保護者	取組指標	子どもと決めたゲーム・インターネット（Youtube・スマホ・タブレット・LINEなど）の		65				
	子どもとゲーム・インターネットを使うときのルールを決めて、守らせることができた。	A ルールがあり、しっかり守らせることができた						
	(目標指数)	B ルールがあり、だいたい守らせることができた						
		C ルールはあるが、守らせることはできなかった						
		D ルールを決めていない						
《結果・考察》 ・保護者の数値は、家庭での児童の実情を表しているように思う。 ・本年度、スマートルールに取り組んだが、取り組み回数の少なさから家庭でのメディアルールについての意識付けができなかったのではないかと。			《改善・取組》 ・親子でこの問題を考えてもらうため、学習会を開く。（福井大学子どものこころの発達研究センター 松崎秀夫教授の「ネット依存が脳に悪影響を及ぼす」のような内容） ・保護者に意識を高めてもらう。 ・SNSの使い方について、保護者向けまたは親子で聞くような講演会などを、参観授業等で取り入れていくことを検討していく。 ・月1回、ノーメディアデーを設定し、児童や保護者に呼びかけをする。学校からワークシートなどを配付せず、ご家庭で話をしてもらえるようにする。					

信頼される学校 学校評価総合シート

重点目標		◎家庭・地域と連携した教育活動の実践 ○危機管理体制の充実と意識向上 ○家庭と連携した情報モラル教育の推進					
具体的な取組		◎地域と連携した教育活動を積極的に展開し、地域やふるさとへの愛着や誇りを育てる。 ○お便りやHP等で、積極的に学校の情報を発信する。 ○学校公開の推進、学級懇談会等を通じて、保護者との信頼関係づくりに取り組む。 ○安全・安心な生活…登下校時や学校内での安全指導、防災、防犯教育を充実する。					
回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指数 学年だよりやホームページ、連絡システムなどを活用し、教育活動など学校の情報を発信した。 (目標指数) A+Bが90%以上	保護者や地域へのおたよりやホームページ等で情報発信を効果的に、	90 以上	100			0%
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
保護者	満足度指数 お子さんとの会話、おたよりやホームページ、連絡システムなどから、教育活動など学校の様子がよく分かる。 (目標指数) A+Bが85%以上	おたよりやホームページ、学校公開から、教育活動など学校の様子が	85 以上	97			3%
		A よく分かった					
		B 分かった					
		C あまり分からなかった					
《結果・考察》 Home&Schoolによる学年だより等の配信や、ホームページの更新について、保護者の評価は高く目標指数を上回った。学校の様子が保護者に詳しく伝えられたと考える。			《改善・取組》 今後も適当な情報量の提供を考えつつ、校内の様子を伝えていくことを続けていく。また、学校公開の頻度を考えながら設定していく。				

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	成果指数 ふるさと学習で児童が自分の地域のよさを見つけられるような指導ができる。 (目標指数)	ふるさと学習で児童が自分の地域のよさを見つけられるような指導が	90 以上	78			22%
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
児童	成果指数 生活や総合の学習で自分の地域のことがわかる。 (目標指数) A+Bが90%以上	生活や総合の学習で自分の地域のことが	90 以上	96	98		4%
		A よくわかった					
		B だいたいわかった					
		C あまりわからなかった					
《結果・考察》 児童の数値が高く、自分たちの地域を意識しながら学習できていたことが分かる。それに対して、教職員の数値が低い。ふるさと学習は全学年で取り組むことになっているが、地域のよさにふれさせる活動を設定することが難しかったと考える。			《改善・取組》 ふるさと学習におけるカリキュラム全体の見直しを行い、具体的にどのような活動をするのかポイントをしばり、三国を意識していくような地域と絡めた活動を設定していく。児童がふるさとについて学び、将来ふるさとを大切にしていこうとする土台を育てていくことができるようにしていく。				

信頼される学校 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R7_12月		7月	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果	A+B(%)		C+D(%)
教職員	取組指標 相談や児童・保護者との面談及び電話・連絡帳などを活用して、児童・保護者とのコミュニケーションを図ることができた。 (目標指数)	面談・欠席者への連絡・気がかりな事等の話し合いなどを通して保護者とのコミュニケーションを図ることが、		100				0%
		A できた						
		B だいたいできた						
		C あまりできなかった						
児童	満足度指標 教育相談の時や必要なことがあった時、先生方に話すことができる。 (目標指数)	教育相談のときやこまったことがあったとき、先生や親、友だちに		90	93			10%
		A 話せた						
		B だいたい話せた						
		C あまり話せなかった						
保護者	満足度指標 学校生活のことで気になることがあれば、教職員に相談してみようと思う。 (目標指数) A+Bが85%以上	学校生活のことで気になることがあった時、教職員に相談してみようと思	85以上	96				4%
		A 思う						
		B だいたいそう思う						
		C あまり思わない						
《結果・考察》 どの項目も高い数値になっており、保護者の数値に関しては目標指数を達成することができた。教職員による保護者への連絡が迅速に行われていること、保護者からの相談にも教職員が丁寧に真摯な対応がなされていることが要因となっていると考える。 学期に1回ずつ設けている教育相談週間や、今年度から実施している心の健康観察も、児童の細かな変化に気づくために効果があったと考える。			《改善・取組》 心の健康観察や教育相談週間を継続して実施し、児童の小さな変化を見逃さないよう日々児童と関わっていくことが大切だと考える。また、今後も保護者との連絡を密にし、良い点や気がかりな様子を連絡帳や電話等で保護者にこまめに伝える活動も継続していく。					

学校評価で保護者から寄せられたもの

- ・ 修学旅行で写真屋さんが同行しなかったのがとても残念でした。他の写真屋でもいいので早めに手配するなど考えていただきたいです。(6年)
- ・ 何か困ったことや不安なことなど、先生に相談させていただくと、いつでも熱心に話を聞いてくださり、解決のために動いてくださるので、親としては本当に安心してお願いできると思っております。子ども自身も、先生の授業が楽しい、いろいろなことを教えてくれて面白いと話しておりました。(5年)
- ・ 入学当初より子どもたちのことをよく見てくださる先生のおかげで、あまり友達のいない中でスタートした学校生活でしたが、今ではたくさんのお友達に恵まれ、毎日楽しく登校できています。体調不良や心が疲れてしまったときでも、随時子どもに寄り添った対応をしてくださるので、私も子どもも安心して先生に相談できるので、本当にありがたいです。(1年)
- ・ いつも手厚いご指導ありがとうございます。(4年)(2年)
- ・ 毎日楽しく学校に行っています。(2年)

学校関係者評価

第2回家庭・地域・学校協議会（R8.2.25）より

【確かな学力】

- ・学校の日課のなかで、読書の時間が確保できている。家庭ではほかに優先されることがあり、読書の時間が作りづらい。親子読書の取り組みで家庭での読書時間を確保していきたい。
- ・読み聞かせボランティアをしているが、西小児童は興味・関心が高い。西小は読み聞かせの時間が十分確保されているので取り組みに力を入れやすい。

【豊かな心、健やかな体】

- ・感染症に罹患した場合の出席停止や学級閉鎖では、体調が戻っていても（規定の日数のために）登校できないというストレスを感じている児童がいる。気持ちが落ち込まないようなフォローをお願いしたい。
- ・家庭でのスマートルールは、設定しているがなかなか守れないことがある。そんなときは学校からも指導を入れてほしい。家庭でも複数で見守っていくつもりである。

【信頼される学校】

- ・保護者の意見からも、学校で先生方は一人ひとりを大切にしてお対応していることが分かる。保育園では子どもたちを「地域の宝」として接している。小学校でも園と同様、子どもたちを「地域の宝」として接し、ふるさとのよさを伝えている様子が感じられる。引き続き連携していきたい。
- ・ふるさとで楽しい体験をしたことが、また帰ってきたいという気持ちになればよいと感じている。コサージュ作り体験に携わった人も、出来映えに満足している。

【その他（意見交換）】

- ・子どもたちに地元の歴史を伝承する機会を作りたい。新保地区は江戸時代からある地区。住民がこの地区がどんな地区なのか知らない人が多い。北前船が港に入るときの歌（いさき）には地域のことが歌詞に入っている。保存会もあり、三国祭りでも歌われ神社に奉納している。市の文化祭で披露する場面で、児童が関わるのは現時点では難しいが、機会を見て児童の目や耳に触れさせていきたい。
- ・学校で話してくれる語り部を呼ぶ場合は、コミセンが窓口になる。
- ・西小の児童は、感情の表現が少ないように感じられることがあるが、自分の意思をしっかりとっているのであれば、それを地域性やよさととらえ大切にしていく。西小の児童は気が優しく思いやりがあり、敬老会で手紙を読んだときには、お年寄りに大変喜ばれた。進学するにつれて学校の規模が大きくなり心配な面もあるが、卒業生たちはよくがんばっている。西小は、大人数にうもれることなく、先生方の目もとどき、気をつけてくれているのでいい子が育っている。
- ・送迎のときに保護者の車列で割り込みをする人がいる。児童には教員が付いているが、道路に出たからの安全が確保されないので保護者への周知が必要である。

令和7年度 家庭・地域・学校協議会委員

	氏 名	団体名等	備 考
1	古 木 敬 三	新保地区区長会長	地域代表
2	浅 田 邦 夫	浜四郷地区区長会長	//
3	新 谷 美 保 子	民生委員代表	//
4	午 房 守 治	新保コミュニティセンター長	//
5	濱 中 妃 史	浜四郷コミュニティセンター長	//
6	秋 山 美 穂	米納津保育所長	//
7	矢 原 雅 之	P T A 会長	家庭・母親代表
8	宮 永 恵 利 子	P T A 副会長	//
9	渡 辺 邦 彦	校 長	学校
10	奥 出 浩 司	教 頭	//
11	平 山 大 造	教 務	//